

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	認知症高齢者 たかつぼ
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	新潟県 村上市
記入者名 (管理者)	高橋 洋子
記入日	平成 20 年 12 月 18 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
<input type="checkbox"/>	地域密着型サービスとしての理念 1 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	独自の理念を掲げ、重点項目も定めて掲示し実現に向けた取り組みが行われている。		理念に基づいた重点目標を解りやすく大きく掲示している。
<input type="checkbox"/>	理念の共有と日々の取り組み 2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員会議でも話し、職員に浸透し実践されている。		取り組んでいる。
<input type="checkbox"/>	家族や地域への理念の浸透 3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の方にも説明している。又地域の人々には、ホームの広報誌、運営連絡会議等でも理解していただけるよう取り組んでいる。		地域の方々に、もっと理解してもらえよう取り組みたい。
2. 地域との支えあい				
<input type="checkbox"/>	隣近所とのつきあい 4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえよう日常的なつきあいができるように努めている	声掛けは行っているが、道路より奥まった所にホームがあるので、なかなか立ち寄ってくださるような付き合いは難しい。毎月10日にお茶会を実施し、ホーム便りでも呼びかけている。		もっと積極的に行動していきたい。
<input type="checkbox"/>	地域とのつきあい 5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の祭り、集会所で行われる行事に参加している。中高生の訪問も数回ある。地域の茶の間、敬老会、小学校の運動会にも参加している。		広域図書館も利用している。もっと、もっと保育園の子供たちや地域の方々との交流の機会を増やしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域で認知症の方を介護されている家族の方が、その方と一緒に遊びにきてくれたり、認知症の方が遊びに来てくださる。「介護のことなら何でも相談してください。」とお知らせしている。又それに伴い勉強会も行っている。</p>		<p>地域の認知症の方を介護されている方のつどいにも参加している。もっと役立つことがないか話し合っていきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>指摘事項を話し合い、改善できるよう取り組んでいる。又外部評価を実施する事で職員、ホームの質の改善へ、つなげることが出来ると理解している。</p>		<p>会議や日常の話し合いにて共有している。</p>
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>管理者、出席職員より話を聞き対応している。</p>		<p>出席者の方々よりたくさんの意見がでるようにしたいと考えている。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>地域の支援センターや包括支援センターとの連携はとれている。又市町村担当職員の方も時々来られる。</p>		<p>行っている。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>必要な入居者の方は現在いないが、個々で勉強している。</p>		<p>勉強会を計画していく。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>入浴時等、身体観察を実施している。防止に努めている。</p>		<p>管理者が認知症虐待防止サポーター養成研修を受講しているので他の職員に研修を行っていききたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	実施している。		家族の声を十分に聴いて対応している。
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	必ず管理者に報告し、職員全体に申し送り、解決に向けている。		意見の言いやすい環境、信頼関係を大切に考えて取り組んでいる。その都度対応している。
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	面会時、電話、広報誌でホームでの近況を伝えている。又毎月のサービス担当者会議の内容も各家庭に送付している。		金銭出納帳を作成し、3ヶ月毎に出納帳と領収書を家族に送付し、確認書を返送していただいている。
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	何でも話が出来る雰囲気作りに努めている。苦情、相談窓口も掲示している。		反映できていると思う。
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	運営者、管理者はいつでも職員の意見や、提案を聞いてくれる。		その都度対応している。
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	利用者や家族の状況に合わせた勤務時間帯を調整している。		入居者の不穏時の対応の際には超勤対応にて、又家族の都合にも合わせて対応している。
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	実施している。異動はあまりない。		説明している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特養の研修会に参加。なるべく皆が研修会に参加できるように配慮している。		研修会に参加できなかった職員もその内容を周知できるようにノート作成したり、会議の場で報告して共有している。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回管理者の意見交換を、又1年に3回職員の交流の場を持っている。		同法人のグループホームに実習する予定になっているが、今後勉強会を行うなど、サービスの質の向上につなげるようにしたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩場所を設け離れることが出来るようにしている。又管理者に相談し助言をもらったり、職員間で軽減に努めている。		いつでも相談できる環境にしている。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	本年度より昇格(正規職員)試験を実施した。園長も気に掛けてくれる。		資格取得できやすいように勤務表も配慮している。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	傾聴し安心感を持っていただけるようにしている。		その時々で不安の無いように対応している。時間のある時は特にゆっくり聴いている。(夜間など)
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者が行っている。		家族の方の都合の良い時間に合わせてその都度対応している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援センター、包括支援センター等と協力しながら対応している。		担当ケアマネと管理者と一緒に家族の方と面会し必要としている支援を助言し足りたり、対応している。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学に来ていただき雰囲気を見ていただいたり、お試し宿泊も実施している。		今年度よりお試しお泊りを実施している。又日中だけのお試し利用も行っていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居されている方々との会話を楽しんだり、長い人生の経験を学び、敬意料理、畑、等教えていただいている。		料理の下ごしらえ、味噌汁、漬物など、できる事を行なっていただいている。常に一緒にいて傾聴を心掛けている。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時に入居されている方の状況を伝え、会話の中より情報を得たり、小さな事でも報告している。又ホームの行事に参加していただき一緒に楽しんでいる。		広報誌の作成、面会時、行事参加時に近況を伝えている。又電話にて伝えることも行っている。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人と家族の関係を理解しながら観察して介入している。		日帰り旅行、夏祭り、新年会、誕生会への参加をお願いし一緒に楽しめる時間をつくることで、良い関係が築けるように支援している。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りや、友人、知人の面会がある。外出先等で知人に会った際は、ホームに遊びに来ていただけるように、話をしている。		本人の希望によりお彼岸、お盆には、お墓参りに行っている。気軽に友人、知人、親戚の方の面会がある。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士のトラブルの際には職員が介入して孤立しないように注意している。		孤立しないように常に職員と一緒にいる。トラブル時はその場から距離を置いたり、話題を変えたりして支えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	広報誌を継続的に送付して関係を継続する事を大切にしている。		契約を終了してもホームに来ていただけるように話をしている。又広報誌を送付して近況をお知らせしている。連絡を取っていない家族もある為、もっと連絡を密にとって行事にも参加していただけるようにしたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者のかたの会話の中から引き出している。又希望に添うように心掛けている。		これからも把握に努めたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時家族の方より情報収集している。又センター方式を記入していただいたり、直接話を聴いている。		センター方式に記入できない方がいるので早急に記入したい。会話の中から生活歴を聞きサービスの参考にしたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ケース記録、申し送りノート、日誌、等にて把握するよう努めている。		休日職員も把握できるよう記録はキチンと記入している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月に1回会議で話し合い、介護計画の見直しを行っている。家族や本人、必要関係者については、管理者が聞き取りを行い作成している。		その都度対応している。又家族の方が来られた時意見を聞いている。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	その都度見直しがおこなわれている。連絡ノートを活用しておこなっている。		その都度対応している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、食事量、排泄、身体状況も個別に記入して実践や個別介護計画の見直しに活かしている。		活かして行っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望や家族の状況に応じた支援を心掛けている。		独り暮らしの方には募参りや自宅への外出支援、希望時の買い物等、家族の方の希望や本人の希望に応じた支援を心掛けている。
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティアの方の訪問は積極的に受け入れている。ようやく今年小学生の児童と交流する事ができた。		まだまだ積極的に外へ出て行く必要があると考えている。警察の方とはまだ協力体制が出来ていないので取り組むことを考えている。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前に利用していたケアマネジャーやサービス事業所と積極的に話し合い支援している。		支援している。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括支援センターの方と必要性に応じて協働している。(周辺の情報、支援に関する情報交換)		協力して行っている。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者、家族の希望の沿って工夫している。必要に応じて、かかりつけ医に電話や文書にて情報提供を行っている。		対応できている。個々にかかりつけ医はいるが、緊急時は協力病院を利用している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医院に受診されている方もいる。気になる方の家族の方に話し、管理者も一緒に同行し対応を相談している。		今後もっと関係を築いていけるように努力していく。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	特養看護師に緊急時相談し対応している。日常の健康管理は職員が行っている。		定期的に特養の看護師が訪問できる体制を希望していく。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力病院とは連携ができています。又他医療機関とも必要に応じておこなわれている。		主に管理者がおこなっている。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今後予定していく方針である。		家族の方とはできるだけ話し合いをおこなっているが、医療機関とはチームとしての支援はまだできていない。家族の方との話し合った内容は職員間で共有している。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後予定していく方針である。		今後の変化に備えて検討は行っているが協力医療機関が終末期の協力体制がまだできない状況の為、今後も話し合いを持つ必要があると考えている。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報を共有し不安材料を除くことができるよう心掛けている。		家族の方やケア関係者間で十分な話し合いや情報交換をおこなっている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の方への声掛けは穏やかに。話しは傾聴し共感するように努めている。記録等は保管庫に保管している。	声掛けや対応には、充分注意しておこなっている。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	入居者一人ひとりに合わせた声掛けや説明を行っている。又自分で納得したり決定できる支援をおこなっている。	理解しやすい言葉、わかりやすい言葉掛けは実施している。が、もっと自己決定できる機会を増やしていく支援をする。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりのペースを大切にして支援している。	その方のできる事に関する個別レクをおこなっている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	希望者にはなじみの床屋が来られたり、行ったり、ホームに決まった床屋も来られる。洋服を一緒に買いに行くこともおこなっている。	パーマをかけたい時は、本人の希望する美容室へ行っている。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に調理、食事、片付け、味付け、盛り付け等もおこなっている。希望があれば献立の変更もある。	食事形態も個々にあわせている。(刻み、ミキサー、トロミ)漬物も一緒に漬けている。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人、家族より希望があるものは個別に用意している。	希望があれば一緒に買い物へ行き購入したりと、個別に対応している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し把握するよう努めているリハビリパンツを使用していた方も布パンツに変えて支援している。		個々に対応している。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望にあわせてほぼ毎日入浴を実施している。家族宿泊の際は夜間一緒に入浴している。		ゆず湯、菖蒲湯等、季節感を感じていただいたり、入浴剤を使用して、楽しんでいただいている。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れないときは暖かい飲み物を出したり、一緒に話をしたり、気分を落ち着けるよう配慮している。無理に就寝を促さず、リラックスできるように支援している。		不安等ある時は受容し傾聴し安心していただけるよう努めている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴からできる事、楽しみごとを実施していただけるようにしているが全入居者の方にできていない。		全入居者の方に対して継続してできる事を行なえるよう体制を整えて実施したいが、不穩、被害妄想の方、重度の方の支援にできないときも多い。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方には支援している。一人ひとりに合った対応をしている。		一緒に買い物の際は支払いも行ってもらっている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	個別にバスハイク、散歩にと気軽に出掛けられるよう心掛けている。独りで自宅へ帰られる方もいる。		個々に対応している。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族と入居者、職員全員でバス旅行実施。家族と温泉に行かれる方もいる。		もっと希望に添いたいと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個々に対応している。年賀状は毎年書いて出してもらっている。		電話の使用も自由である。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族の方の希望に合った場所でゆっくりお話しし過ごしてもらっている。		気軽に来て頂いている。(過ごされている。)知人、友人、親戚の方が来られたら、気軽に来ていただけるようにお話をしている。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルが職員に周知されている。身体拘束は行われていない。		法人と契約も行われている。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関はタッチ式の自動ドアだが日中は入居者の方が自由に外にでている。		天気の良い日は部屋の窓も開け放している。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	定時、所在確認を行い安全に配慮している。夜間巡回も実施している。		所在確認、安全確認、安全確保を徹底している。不穏状態見られる方は、特に所在確認を徹底している。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	状態に応じて注意している。		薬品、洗剤など特に管理に気を付けている。
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止マニュアルが整備され、ひやりハット報告書を活用している。防災訓練の実施。(年2回)		訓練、講習会、研修などに参加し、共有されている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年1回特養看護師より研修がある。2年に1回消防署より救急法講習がある。		初期対応の訓練は行われていないので実施したい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	訓練を行っている。又避難場所も決まっている。		地区区長も防災訓練に参加していただいている。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	入居時に説明しているし、来られた時家族の方と常に話し合い連絡をとっている。		職員、家族の情報交換を密にとっている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い、異変のある方は職員で情報共有を行っている。又家族にも連絡している。その後午後、夜間もバイタルチェックを行い、注意している。		早期発見できるよう常に注意して身体観察を行う。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬の確認を行い、理解している。		錠剤服用できない方には粉にさせていただいている。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分を多く摂ってもらい、野菜を多く取り入れた食事を提供している。排泄チェック表をかつようして、リズムを把握している。		食物繊維を多くとるように工夫している。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後個々に対応している。職員と一緒に歯磨きをする事もある。就寝前に義歯洗浄、朝食後義歯入れの消毒を実施している。		今、現在残っている歯を大切にしてもらう為気を付けている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算を実施し、特養管理栄養士よりアドバイスを受けている。つきに1回体重測定実施。必要に応じて個々で食事形態、量の工夫を実施している。		個々に対応じて必要時、摂取量チェック必要。体調にすぐれないときは粥に変更したり希望に応じている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルあり。それに基づき随時申し送りあり。うがい、手洗いの励行。毎日、テーブル、手すり、トイレを次亜塩素酸で消毒している。		予防に努めている。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材の保存に気を付ける。マニュアルあり。賞味期限のチェック。調理時間を決めて厳守している。		月に数回冷蔵庫内整理、消毒を行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホーム入り口に看板を設置。入り口には手作りの表札もあり。季節に応じた花を栽培している。		もっとたくさんの花を植えていきたい。
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に合わせたフロアの装飾を行い、畳台に座りのんびり過ごされている。		トイレ内にも季節に合わせた花を飾っている。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	コタツやソファ、畳台に座りのんびり過ごされている。		畳台、ソファに本やぬいぐるみ、昔のおもちゃ、お手玉などを置き楽しみごとを提供している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたものをなるべく使用して自分の部屋を作っていただき安心して過ごしていただけるよう工夫している。		家族と職員が相談しながら過ごしやすいように工夫している。自分で塗った塗り絵も飾っている。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	こまめに実施している。		加湿器、エアコンの温度を適温に調節し使用している。早朝の空気の入替え、居室にはバスタオルを掛けて乾燥のしすぎ防止としている。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを増設している。バリアフリーで車椅子でも対応可能であるが脱衣場、トイレに手すりが必要だと思っている。又玄関先の段差を解消したい。		必要に応じて実施してしている。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	常に寄り添い安心していただけるよう心掛けている。認知症の進行状態に合わせた対応をしている。		その方に合わせた対応を心掛けている。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	自室外にプランターを置き花や野菜を育てている。		次年度はコスモス畑や、アジサイの花壇を作る予定。果物の木も植えたいと考えている。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
		○	たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・食事は手作りのものを提供している。(すべてのもの) ・ほぼ毎日入浴を実施している。 ・毎日朝9時にバイタルチェックを行い、健康管理に気をつけている。 ・その方の状態に応じて傾聴しゆったり落ち着いて過ごしていただいている。 ・症状が見られる方に対し、生活歴、思いが理解できるよう職員が情報を共有し、対応を考え、薬に頼らない介護を実践している。